

予算審査特別委員会

日 時 平成31年3月11日（月）  
午後1時～午後3時8分  
場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員8名（欠席：古都委員）  
説明員 中曽事業管理者、伊田事務部長、小倉主事  
田邊園長、大谷副園長、山本副園長  
丸山教育長、安達教育次長、榎尾主幹  
傍聴者 なし  
書 記 岩崎事務局長、佐伯書記

○山本委員長 ただいまより予算審査特別委員会を開会いたします。本日は、日南病院についての審査を行います。

日南町病院事業会計予算について説明を求めます。

中曽病院事業管理者。

○中曽病院事業管理者 そうしますと、本日は伊田部長のほうから説明させていただきますが、説明員としては私のほかに伊田部長、それから財政担当の小倉主事を同席させますのでよろしくお願いいたします。

○山本委員長 タブレットの217ページからということになります。よろしいでしょうか。

伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 失礼します。そうしましたら、私のほうから31年度の日南病院事業会計の説明をさせていただきます。議案第42号の説明です。本会議の当初予算提案説明で管理者のほうの説明したものと若干、重複するところがありますが、よろしくお願いいたします。

お手元に配付されています議案書、タブレット予算書ファイル217ページに基づいて御説明をさせていただきます。第2条、業務の予定量ですけども、年間患者数を入院2万100人、1日当たり55.3人、外来2万6,112人、1日当たり107.9人と見込んでおります。これにより第3条の収益的収支は予算総額11億5,926万8,00

0円、対前年度予算で3,212万4,000円の増としております。

収益の内訳は、医業収益が6億7,582万6,000円、1,683万4,000円の増、医業外収益が3億3,850万7,000円で1,184万6,000円の増加。介護収益が1億4,492万2,000円で、344万4,000円の増加としております。

一方、費用の内訳でございますが、医業費用が11億4,516万6,000円で、3,178万7,000円の増加。医業外費用が1,380万2,000円で33万7,000円の微増としております。

次に、予算書第4条の資本的収支予算ですけれども、資本的収入が3,970万9,000円、資本的支出が1億3,448万5,000円とし、不足する9,477万6,000円は過年度留保財源で補填するものとしております。収益的収支は2.9%の増、資本的収支の支出は17.9%の増となっております。同じページ、予算第14条におきまして、重要な資産の取得及び処分としまして、X線ポータブル一式を上げております。

次のページで、別表企業債の表につきまして、エレベーター2号機の改修、療養病棟のナースコールの更新、院内電話機の更新の財源といたしまして、病院施設改良事業債2,370万円、X線ポータブル装置、眼科外来自動視野測定器、リハビリ科の電気刺激治療器、医事課のシステムクライアントの更新等の財源とし、器械備品及び備品整備債で1,060万円を計上し、合計3,430万円の企業債を充てております。

以下、これらの詳細につきまして、予算書22ページ、タブレット243ページから予算の見積書により御説明をさせていただきます。上のほうから、入院収益、年間患者数2万100人と見込み、前年度比で3,044万4,000円の増で3億9,094万4,000円、外来収益が年間2万6,112人を見込み、1,672万2,000円減で1億9,121万4,000円としております。予防接種などによるその他の医業収益は9,366万8,000円で対前年311万2,000円増で、そのうち他会計負担金は6,725万3,000円で、対前年39万円の増を含んでおります。

次のページの医業外収益です。預貯金や補助金、他会計負担金が対前年比1,184万6,000円の増で3億3,850万7,000円で他会計負担金3億708万2,000円のうちには、買電収益の787万円、地域医療総合確保基金からの繰り入れ6,262万4,000円が含まれております。

次のページで、介護給付費収益が424万5,000円の減で1億1,658万5,0

00円、予防給付費が538万円の増の836万3,000円となっております。一般会計からの繰入金は、医業収益に係る他会計負担金6,725万3,000円と医業外収益に係る他会計負担金3億708万2,000円の合計が3億7,433万5,000円を計上しております。対前年比1,097万2,000円増加しております。

次に、予算書26ページ、タブレット247ページをごらんください。病院事業費用において、給与費は対前年度3,110万8,000円増で7億9,250万円、主に嘱託医師の賃金、看護師、医療技術員、介護福祉士の人材確保、医療技術員の育児休業からの復職が主な増の要因です。

次のページで、材料費は診療材料費で今年度新規に感染症対策の防御具購入100万円を計上し、9,289万9,000円です。経費につきましては、883万6,000円増の1億7,459万9,000円としております。各項目とも30年度の実績を基づきながら推計をしておりますけれども、増額となりました主な原因としまして、光熱水費、燃料費は187万6,000円の増となっております。賃借料は、寝具、病衣、入院患者増に伴う借り上げなど151万8,000円増。その他委託料につきましては、病院のホームページの更新、情報システムの新元号の対応業務委託、特殊建物建築の定期検査、生化学分析自動装置の保守点検を31年度から発生する経費等で432万1,000円の増の内訳です。

タブレット251ページ、予算書30ページからの資本的収支ですが、平成31年度日南町病院事業会計資本的収支当初予算説明書161ページと162ページにも記載しておりますので、あわせてごらんいただけたらと思います。収入には器械整備に係る補助金540万9,000円、エレベーター改修など病院施設改良事業債2,370万円、器械備品整備債1,060万円の合計3,970万9,000円を計上しました。

次のページの支出においてですが、当初予算事業説明書にも記載していますが、エレベーター2号機改修1,080万円、病棟ナースコール596万6,000円、電話機の更新702万円、一般病棟のトイレ等改修で272万5,000円など、工事請負費として2,951万1,000円を計上しております。また、X線ポータブル撮影装置999万円、電気刺激治療器43万、眼科用の自動視野測定器561万6,000円、医事課システムのクライアント一式更新で644万7,000円など、固定資産購入費として3,344万3,000円を計上しました。

エレベーターの2号機の改修におきましては、エレベーター、院内に2台ありますけど

も、今回更新予定のエレベーターは、2号機は外来のリハビリ側にあるエレベーターで、昭和61年11月に設置し、31年経過するもので、今回更新をしたいというところがございます。電話機につきましては、現在使用している電話機の本体のハードの製造がことし31年7月で終了するため、院内の電話機を更新をするものです。療養ナースコールの更新につきましては、療養病棟のスタッフコールに経年劣化で不都合が生じているため、このたび更新するものがございます。一般病棟の身障者用のトイレ等の改修につきましては、入り口のドアの自動化、照明感知センサーに改修して、車椅子の患者様に対応した使いやすいものとなるよう改修をするものです。

有形固定資産の購入で、X線ポータブル装置の更新についてですけれども、既存のX線ポータブル装置は救急外来、入院患者様に対応している移動式の撮影装置ですが、平成2年に導入して28年が経過しているため、近年、故障が目立ち始めてきて、また低出力のため画像精度が低いということもあり、今回更新させていただくというものでございます。電気刺激装置1台の増設ですけれども、リハビリ課に導入します。関節や筋肉の痛みに関電刺激を与えて緩和させる装置でございます。医事課のシステムクライアント更新ですけれども、医事課のシステムクライアントの更新につきまして、端末とかなり膨大なレセプト等のデータ処理をするわけですけれども、相当時間がかかっております。メーカーにその辺聞いてみましたら、システムの能力に限界があるということで、導入から8年も経過してまでするので、このたび更新をさせていただくというものです。

外来の眼科自動視野測定器の更新ですけれども、現行器は平成14年に導入したもので、視標を動かさず、視標の大きさと明るさを変えることによって視野の各部位での視覚感度を測定する器械で、緑内障の診断基準になる検査機器で、病気の進行状態が判断でき、治療方針を決定できる眼科の主要な機器でございます。パネルタッチ等の反応が鈍くなり、診療に支障を来してきておりますので、対応をさせていただきたいということです。それで鳥大や周辺施設の病院で使用されている機器の購入を考えております。

画像診断モニターにつきましては、放射線科で撮影しました画像を外来診療室の備えつけの画像診断モニターにデータ転送するものですけれども、このたび内科診療の1台を更新をさせていただくものです。

次に企業債の元利償還金ですけれども、6,593万1,000円を計上しております。対前年度予算では8,219万9,000円で、マイナスの19.8%になっております。これは平成17年度に本館の増築、医師住宅の新築、医療機器の購入で借り入れた2億7,

580万円、それと平成24年度に医療機器の更新で借り入れました1,430万円の起債償還が平成30年度に終了したことによることが大きな要因です。貸付金としまして、奨学金、支度金、貸し付け合わせて560万円を計上させていただいております。

以上、若干早口になりましたけども、病院事業会計予算の説明を終わらせていただきます。御審議のほどよろしく申し上げます。

○山本委員長 ただいま説明をしていただきました病院事業会計予算につきまして、質疑を求めたいと思います。質疑ございますか。よろしいですか。

久代安敏委員。

○久代委員 まず、入院の見込みが1日当たり55.3人で外来が107.9人という予算を立てられていますが、一方で、全体として地域医療総合確保基金の繰り入れを6,262万4,000円、先ほど説明があったように、その基金を取り崩して病院事業会計に入れておられますが、全体としての平成31年度の経営見通しがざっくりその基金を地域医療確保の基金から繰り入れないと病院事業の運営が赤字になるということをおあらかじめ想定されて、その基金を繰り入れられたのかということについて、入院患者、外来患者の数も含めて、来年度の見通しをちょっと示していただきたいのですが、どうでしょうか。

○山本委員長 伊田事務部長。

○伊田病院事務部長 歳入の予算につきましては平成30年度の実績を参考にさせていただいております。入院につきましては11月くらいからかなり入院患者様がふえまして、収益も上がっておりますけども、外来のほうは落ち込んでおります。

それで今、日南病院の収益的収支のほうで占める割合が大きいのは人件費、特に看護師さんの平均年齢がかなり40後半になって人件費に占める割合も高くなっておりますので、そういった新陳代謝が図れないとしばらくは人件費のほうがかかるのかなというところで、できるだけもう少し精査すれば入院費あたり、もう少し予算が増額が見込めるかもしれませんが、ちょっとかたく見積もらせていただきました。そのような人件費、経費等を含めまして、6,000万近くの基金の繰り入れということを当初から見込ませていただいております。

○山本委員長 久代安敏委員。

○久代委員 入院患者は昨年末若干伸びているという報告でしたが、やっぱり外来患者がどのように確保するかということが大事だと思うんですけども、まずはちょっとおかしい

など思ったら日南病院で検診してもらおうということは基本的な自治体病院としての大きな戦略だと思うんですけども、事務部長も事業管理者もきょう出席してもらっていますけども、基本的な日南病院の、まずは日南病院で受診してみようという取っかかりをきちっとつくってもらい必要があるじゃないかなというふうに思いますがどうでしょうか。

○山本委員長 伊田事務部長。

○伊田病院事務部長 外来の患者様が少なくなっているところで、今回31年度からがん検診への取り組みだとか、取り組めるものにつきましては積極的に考えておりますけども、今の外来診療のほうが、整形外科が1日だとか鳥大から1日ないし2日派遣していただける診療科というところが本当にそれでやっとなんかというところで、なかなか外来の患者様の増につなげることができてないというのが実情です。引き続き、診療内科の充実というところ、医師の確保というところはまた引き続きやっていかなくてはいけないというふうに思います。

それと、先ほど申し上げましたように取り組めるべきものは取り組んでいきたいと思いますが、ただ看護師の数も少ないとか、なかなか思ったように基準をとれるような取り組みというところがまだ至らないというところで、そういった事情もありますけども、できるだけ患者様が日南病院で診療を受けてもらえるように知恵を絞って、日南病院職員一丸となって対応してまいりたいと思います。

○山本委員長 よろしいですか。

久代安敏委員。

○久代委員 やっぱりその患者をふやせといえは変な話なんですけども、やっぱりちょっと変だなと思われる方がまずは一番近くの病院に出かけてもらうというのは、いろいろ総合健診とか、がん検診とか、いろんな方法で取り組んでおられますけども、何か一つの大きな、私はきっかけとして病院の医療器具でMRIを導入してみたらどうかということも議会の予算審査や決算の中でも申し上げているわけですけども、本当に日野病院にあるような最新鋭の機械が導入されたら、まずはきちりそこで診断ができるというふうな取っかかりもつくっていく必要がある、戦略としてはあるじゃないかなというふうに思いますけども、具体的にMRIの導入とかいうことについては特にドクターや看護師、病院のスタッフの中で議論された経過がありますでしょうか。

○山本委員長 中曾事業管理者。

○中曾病院事業管理者 MRIについては病院の中でも何度か議論をしております。いろ

いろ何点か現状の中で隘路がありまして、過重による建物の強度がどうかということがあったり、伯備線の電食あたりは、わかりませんが、確認したわけではないんですけども、そういった影響も考えられる。それから、あと脳関係の専門の先生は日南病院には現在いらっしゃらなくて、その十分、一定程度の活用できるんでしょうけども、どこまで診断上活用できるかというところではまた専門医のいらっしゃる病院とはまたちょっと違った面もある。全体に費用対効果が現状ではなかなか見通せないというような判断が病院の中では現段階ではしておるところでございます。

○山本委員長 いいですか。

坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 31年度の予定として、医師の状況、現状と変わらなければそれでいいんですけども、31年度の医師の確保の状況について。そして胃がん検診に対応されるということなんですけども、これの対応方針といたしまして、体制について説明をいただきたい。

○山本委員長 中曽病院事業管理者。

○中曽病院事業管理者 医師の確保のについては、大体现在のところ現状の体制で迎える予定です。常勤の先生、それから大学の派遣のほうも一応4月以降も現状で当面は大丈夫だというふうに思っておるところです。

それから内視鏡による胃がん検診の件でございますが、がん検診における検診としてカウントするには鳥取県の健康対策協議会の判断の中で一定の資格といたしますか、研修を受けた読影委員会の専門医の、かつその中の読影委員会の医院の先生と複数で読影しないと胃がん検診の実績としてカウントしないというようなことがあります。胃がんに限らず肺がんとか、いろいろほかのがん検診でもあるようでございますが、これは一つは読影の精度管理を一定水準を確保するという意味でございます。日南病院は、内視鏡に対して副院長とか渡邊先生とか優秀な先生いらっしゃるんですが、ちょうど副院長あたりも読影委員会の資格を手放したようなタイミングもあったりして、日南病院だけではがん検診にカウントできるような体制が組めませんので、業務時間が済んでから西伯病院ないしは江尾診療所にドクターが出かけて行って、一緒に読影するという形で当面新年度は内視鏡によるがん検診に向かっていくという形でやる予定でございます。

○山本委員長 よろしいですか。

坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 それから通所リハビリテーションに力を入れるということなんですけども、これの取り組み体制についても説明を求めます。

○山本委員長 中曽病院事業管理者。

○中曽病院事業管理者 通所リハビリテーションは新規事業でも簡単に書いておりますが、きっかけは新年度から維持期リハビリ、医療保険における長期のリハビリが必要な方については、介護認定を受けた人は医療保険の適応が廃止されて、介護保険で実施してくださいという制度改正になります。それがきっかけだったんですが、そういうことで今度は介護保険によってケアマネさんのケアプランを受ける形で、イメージとすれば従来の外来診療と同じ形ですが、病院に来ていただいて、リハビリ室でリハビリを受けるということです。

通所リハビリは一般的にはデイケアというような表現をしますけども、各介護サービス事業所によってやり方はいろいろですが、預かりも含めてほぼ一日預かるというようなデイケアもありますが、日南病院の場合は外来にかわるものとして考えておりますので、おおむね1時間から2時間程度、日南病院でリハビリのサービスを受けていただいて帰っていただく。あわせて送迎の関係もございますので、御自分で病院に来ていただける方についてはそれをお願いしたいと思いますが、なかなか御自分で通院できないという方については病院のほうで送迎体制を組んで実施していきたいというふうに思っております。以上です。

○山本委員長 坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 あとは地域医療確立基金から六千二百数十万円の繰り入れを当初から予定をしてあるんですけども、病院の経営といたしまししょうか、財政の不足分というふうに理解をするんですけども、その辺の病院の経営全体の改善への取り組み、先ほど久代委員からも患者の確保というようなこともあったんですけども、基本的な経営改善に向けての取り組みなり考え方を説明をいただきたいと思います。

○山本委員長 中曽病院事業管理者。

○中曽病院事業管理者 日々いろんな形での経営努力はしてまいりたいと思いますが、抜本的といたしまししょうか、今後の経営の構造を、財政構造が変わるという案件という意味では今の介護療養病棟が平成35年度末で制度が終了いたします。特にいろんな人口推計等々も出ておりますが、中期、長期的に日南における医療サービスをどういうふうに考えていくかという意味では、そういった療養病棟の跡をどうするかということも含めて考えていか



なければ、なかなか現在の財政構造が変わっていくということ、なかなか厳しい状況があると思っております。あわせてその時代のそういうタイミングにおいては、順次その看護師あたりも世代交代を図って、できるだけ若い職員で新しい世代交代の中で、新しい体制で向かっていくと。まだ一般論で申しわけないんですが、そういう姿を今後、1年2年3年ぐらいのうちに検討していかないといけないなというふうに思っているところでございます。

○山本委員長 惠比奈礼子委員。

○惠比奈委員 日南町の医療サービスをどうしていくか、二、三年かけて世代交代を図りながら考えていきたいということですが、医師を除くその他の看護師とかのスタッフの確保もなかなか思うようにいっていないんじゃないかというふうに思うのですが、世代交代を図るといふことに簡単な一言ですが、それをどういうふうに具体的に世代交代が進められるようにしていられるお考えですか。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 人材確保についてでございますけれども、学校訪問したり、専門学校の看護学生を対象とした就職ガイダンスを積極的に出向いておりますけれども、なかなか成果に結びついてないというのが実情ですけれども、実は大阪を拠点とした全国に75校の福祉医療看護系とか、福祉の専門学校でそこは通信教育の専門学校だとか、大学院も運営されている学園のグループで大きなところですけど、その役員しておられる方とつてができて、この前もちょっと行ってきましたけれども、その大阪の学校は1,000人規模の大きな学校で、そういったところにも人材確保について情報交換も含めて行かせていただきました。

若干情報では、関西のほうも看護師さんのほうが少ずつ足りてきた、それから鳥取県の西部のほうも大きな病院では足りてきているので、今度はだんだんこちらのほうにも目を向けていただけるんじゃないかということで、本当に種をまくようなあれですけども、地道にそういったセールス活動をしていって、人材確保をつなげていきたいと思っております。また、OBの方、学生さんの1人、入られたらそれでまた後輩の方だとか、そういったところで先輩をつくって、またそういった学校にこういう病院があるので一緒に働きませんかというような格好で、そういった地道なところでやっていきたいなというふうに人材確保のほう努めていきたいというふうに思っております。

○山本委員長 惠比奈礼子委員。

○恵比奈委員 種はまかないと実りませんので、頑張ってくださいと思います。

それでこれからの日南町の医療のあり方について、町民の思いというものも大切にしながらやっていただかないといけないわけなんです。高齢化が進んできた少ない人口になってきた日南町において、病院のあり方をどうしていくのかということは大変大きな問題でして、先ほど同僚議員からMRIでも入れてというような前向きな提言もあったわけですが、私はまた反対に、余り高度な医療機械を入れるよりも、やはり日南病院はホームドクターに徹するべきだというふうに考えております。

以前にも申し上げましたが、専門医は市部に大きな病院があるので、必要ときには紹介して検査も受ければいいし、診察していただくということ。前にもありましたが、コンピューターを使ってテレビ電話方式で画像を共有したりしながら診断していくという方法もこれからは本当に取り組んでいただきたいことですし、それから先般、先日だったでしょうか、鳥大の先生の言葉が新聞に載っておりましたけれども、やっぱり総合診療医ですよ。総合診療医をぜひとも日南病院に確保していただいて、総合診療科を設置すべきだというふうに思います。高齢になりますと、1人の人にいろんな病気とか症状が出てくるわけですし、その先生の言葉をよく読んで私も改めて理解したんですが、たくさんの薬を飲むことを避けるために、優先順位をつけて治療していくんだという総合診療科の役割がそういうことにあるというふうにも書いてありました。まさに日南町のような高齢化の町に本当に求められていることだというふうに思います。なかなか新しい医者の確保とか難しいでしょうけども、今、日南病院に勤務していただいている先生方にも、何かの形でそう簡単に研修を受けてなれるものかどうかということはわかりませんが、そういう方向で新しい医師を確保するときにも、それから今いらっしゃる先生方にもそういう方針でもって取り組んでいただきたいというふうに思うんですが、ここ二、三年のうちにそういう方向を出されるような考えはありませんか。

○山本委員長 中曽病院事業管理者。

○中曽病院事業管理者 総合診療医というのは、医療の制度改革の中で昨年度からですか、総合専門医制度がスタートしました。全国でスタートしたんですが、手挙げのする学生少なく、たしか鳥取大学医学部でも結局手挙げがなかった、最終的にどうか分かりませんが、私が聞いた時点ではなかったと。残念ながら内科のほうにシフトするような学生的心情があるようでした。総合診療医に手挙げがなかったということでございます。ただ、日南病院においても県内の自治体病院全てそうですが、総合診療的な課題意識を持って、特

に自治医科大学の先生あたりはそういう問題意識を持って実際に向かっていたと思っています。それから総合診療医の前段の学科が3つあるというふうに聞いたんですが、その中のプライマリーケアあたりには高見先生も入ってらっしゃいますし、問題意識としてはそういったことに現在でも向かっておるといふふうに思っておるところでございます。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 予算説明資料の161ページのエレベーター2号機の更新について聞き漏らしたことで、それからもう少し詳しい説明をいただきたいんですが、製造年月日と設置年は何年でしたかね。教えてください。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 昭和62年11月設置で、現在31年経過しております。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 すいません。メーカーはどちらで、それで今までにオーバーホールとか大きな部品交換、このような1,000万じゃないですけど、それくらいのメンテナンスをされたことはございますか。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 メーカーのほうは三菱さんです。それで31年間経過しておりますので、定期的に点検の中で消耗するような機材等については更新して、修理しながら基準を満たせて運用しているということだと思いますけど、具体的に、詳細はわかりませんが、定期的にメンテナンスをして、減耗するような部品についてはかえておるとは思いますけども、大きな修理のほうはしてないかと思われま。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 ありがとうございます。これは恐らく病院ですから1階から3階までのエレベーターと思うんですが、ここのメンテ会社もしわかれば教えていただきたいんですが。三菱ビルメンテナンスかどこかでしょうか。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 メンテナンス業者さんは三菱ビルテクノサービスさんでございます。

○山本委員長 よろしいですか。

大西保委員。

○大西委員 ありがとうございます。本当に恐らく使用頻度とかいろんな点検記録は全

部残っていると思うんですが、今回、31年経過してということで、この場合メーカーから部品の製造停止をという文書が来たという記録はございますか。保管されてますか。ないですか。そこだけ聞きたいんですが。メーカーのほうからもう製造中止しましたよ、もう20年たちますから、これ以降ないですよというような文書来たことございませんか。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 メンテナンス業者様のほうから見積もりとあわせて、いろいろこの部品はどういうふうな状態になっているんだ、更新が要るとかそういったものは報告書はいただいて、予算要求をさせていただくのに参考にさせていただいたというところです。

○山本委員長 久代安敏委員。

○久代委員 職員の支度金制度ですね、これが始まってから四、五年たつと思うんですけども、この制度による30年度の新規採用、この制度によった、は何人かということと、それから60歳以上、定年は一応病院も60歳と、一部は65歳という、医師の場合はそうですけども、再任用でいわゆる嘱託とか再任用で働いている職員の、看護師も含めて人数をわかれば教えていただきたいということと、全体的に看護師や医師の若返りを図りたいという説明もあったわけけども、やっぱり私は一番大事なものはドクター、医師だと思うんですよ。

やっぱり本当にそれぞれ診療科にいわゆる名医が来られると、看護師も自然に採用がふえていくというふうな現象も近くの日野病院あたりもそういう話も聞くんですけども、その点について改めて医師の確保と、例えば小児科がなくなって年数がかなりたつわけけども、日南町、子供の数が少ないとはいえ、小児科が、勤務医がいなくなったことによる影響についても改めてお聞かせ願いたいというふうに思いますが、どうでしょうか。

○山本委員長 伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 まず前段の就職支度金の30年度の活用ということですが、今31年度看護師1名新卒者を採用する予定ですけど、まだちょっと合格発表がないので場合によっては31年度に就職支度金を用意させていただくことになろうかと思えます。就職支度金、現在今まで支度金は3名、それから奨学金は8名使っていただいております。それと再任用の状況ですけども、60から65歳の看護師が4名、医師が2名ということですよ。

医師の確保ということで、小児科のほうがなくなり、大学から週1日小児科を開いてますけども、やはり子供さんを抱えられる親御さんの話を聞きますと、やはり子供さんというのは熱が出たりして1日だけじゃなくしてその次、2日3日やはり同じ先生に診てもら

って、いいよということになれば安心するということです。やはり1日だけだと次の日だったりその次の日というのが心配なので、なかなかあることはうれしいけども、やはり継続して日にちが連続していないとちょっと不安という声は聞いておりますので、小児科医が大学からの週1ということになって、かなり、小児科といっても本当にゼロ歳から高校生くらいまで幅が広いので、そういったところがほかの病院に行っておられるということが予測されますので、かなり、そういったところが影響が大きいのかなというふうに感じております。医師の確保につきましては、本当に今後とも努力してまいらなくちゃいけないなというふうに思っております。

○山本委員長 よろしいですか。そのほかございますか。

ないようでしたら一つ。先ほど大西委員言われましたけれど、エレベーターの件ですけれど、エレベーター改修といいますか新設といいますか、予算が教育課でも同様なものが出ておまして、この予定をされておるエレベーター、具体的にはあれですが、こういうものというような資料をお持ちでしょうか。

伊田病院事務部長。

○伊田病院事務部長 詳細な見積書等手元には置いてませんが、今の保守点検業者さんからの提案で、使えるものは使うというところで既存のエレベーターのかご室だとか、乗り場扉、レール等はそのまま利用しまして、巻き上げ機であるとか、制御板、表示器具を最小限のところを更新するというところでさせていただいております。また必要であれば詳細は出せていただきたいと思っておりますけども、今現状でお答えできるのはこの程度でございます。

○山本委員長 そのほかございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようでしたら、日南病院については以上で審査を終了いたします。お疲れさまでした。

ここで入れかえのため暫時休憩をいたします。再開を2時からいたします。

〔休 憩〕

○山本委員長 会議を再開します。

これからは保育園について審査を行います。当初予算説明資料70ページです。説明をお願いします。

田辺保育園長。

○田辺保育園長 失礼いたします。本日の説明ですけれども、田辺と副園長の大谷、山本、

3名で説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは説明資料のほうの70ページをごらんください。保育園では平成31年度も3園で運営をいたします。にちなん保育園、分園石見保育園、それから山の上保育園ということで、分園も含め昨年と同じく3園ということで運営をさせていただきます。

子育て支援対策といたしまして、28年度から保育料の全面無償化を日南町実施しております。今年度は10月から国のほうも幼児教育の無償化という制度も始まりますが、日南町は引き続き1歳児から全ての園児について完全無償化を実施し、町として子育て支援の充実を図りたいと思います。執行経費ですが、執行経費の総額1億6,945万4,000円ですが、まず、ほとんどが職員給与、それから嘱託職員の賃金、社会保険料等の金額でございます。これにつきましては、給料・手当・共済費で9,477万5,000円、嘱託さんの賃金、それからパート職員さんの賃金で4,820万5,000円を持っております。

報償費は、内科の歯科健診をお願いしている歯科医師さんの手当等でございます。旅費につきましては、24万円計上させていただきました。これは町内を職員が移動する旅費、それから広島のほうでことしは人権同和研修会があります。それに参加させていただきたいと思います。参加費2名分の旅費を計上させていただきました。

需用費につきましては、3園の光熱費、給食代、保育に係る日用品費、施設整備費等でございます。役務費は電話、郵券、年度末に行います全園の床ワックスです。

委託料につきましては、消防の設備点検、浄化槽の点検、それから日南病院の内科医の先生によります園児の健康診断、暖房の補修の委託料でございます。使用料それから賃借料につきましては、コピー機の使用料と交流保育、秋の遠足の車の借り上げ料です。原材料費は職員でできる軽微な修繕や保育環境を整えるための材料費です。

31年度でございますけれども、工事請負費として118万8,000円を計上いたしました。これは日南保育園の玄関の上の木材部分が腐食して園名が欠落した部分がございます。昨年から直すように段取りはしておりましたけれども、ほかの保育室の外側あたりも傷んできまして、業者のほうに見てもらいましたところ、このあたりも直したほうがいいということで、これを含めまして日南保育園の外壁の工事ということで計上させていただきました。

今年度大きく備品購入費を上げさせていただきましたけれども、遊具を購入をさせていただきたいと思います。にちなん保育園に総合遊具のプレジャーキッズという総合遊具な

んですけれども、滑り台とか丸太登りとかネット登りとか肋木登り等、子供が喜んで体の発達にも有効な遊具なんですけれども、それを購入、設置させていただきたいと思っております。あわせて各園の遊具等の補充であったりとか、足りないものというところもお願いしたく、そこに計上させていただきました。

負担金は、毎年同じように学校体育協会の負担金と、人権同和保育推進連盟の負担金、それからことしはにちなん保育園では自然遊び等を推奨しております。それにつきましては森のようちえん全国研修会というところに保育士のほうが参加させていただいております、これの参加費が2名分ということで計上させていただきました。

下の31年度の入所予定数の数を上げさせていただいております。これは11月に来年度の申し込みというところでお受けした人数を上げております。山の上保育園につきましては前年度4名でスタートいたしました、31年度は7名というところで申し込みが入っております。今3月に入りまして、転勤とかUターンとかでお帰りになってくる方がおられます。ここに89名と上げさせていただいておりますけれども、もう数名、今手続中の方がございますので、90名以上にはなるかなとは思っておりますが、近年100名というところでしたけれども、31年度は少し少ない人数になっております。

それから歳入のほうの財源ですけれども、県の補助金を4つ上げさせていただきました。保育料の無償化に伴う毎年の中山間地域の保育料の無償化モデル事業ということで、97万7,000円を上げさせていただいております。これにつきましては、10月から無償化になるというところがありまして、国のほうからの補助も出る予定になっておりますので、これとあわせて国の補助のほうもまた使っていかなければと思います。

それから低年齢児の受入保育士補助金ですけれども、これは1人の保育士に対して6人の子供というところが国の基準ですが、毎年4.5人に1人というところで補助金をもらっています。

保育サービスの多様化の事業ですけれども、これも配慮を要する子供さん等に保育士を1人つけて丁寧な保育を行うということの補助金です。

産休代替の補助金ですけれども、ただいま産休に入っておる職員が1人おります。このあたりは実績ということの歳入になってきます。

それから諸収入ですけれども、共食費等の実費負担等です。一時保育の利用料というところも入れております。保育所運営補助金、保護者負担金、これは広域入所、他の町から日南町のほうに働きに来られている方が子供さんを預けたいということで申し込みをされ

ます。これは自治体と自治体と契約になりますので、まだ向こうの自治体さんも議会のほうが終わっておりませんので予算が通っておりませんので、予定ということで上げさせていただきます。

過疎債の対策事業債といたしまして、600万円上げておりますが、これは遊具のプレジャーキッズと、それからにちなん保育園の工事の請負費というところの600万円を上げさせていただきます。以上です。

○山本委員長 ただいま説明をしていただきました。このことについて質疑ございますか。

久代安敏委員。

○久代委員 新たに遊具を買われるということで予算措置されていますが、にちなん保育園が主だとは思いますが、その子育てで子供の成長に遊具は欠かせないものなんですが、この施設備品購入で一応子供に必要な遊びですね。これの施設として充足するという感じでしょうかということをお聞きします。まず1点目は。

○山本委員長 田辺保育園長。

○田辺保育園長 今のにちなん保育園ですけれども、3園ございまして、昨年の予算委員会的时候も遊具のことが御質問、御意見いただいたと思うんですけれども、1年かかって保育士のほうと相談したり、ほかのところも聞いてみたりして、遊具の状況を調査、それから実際に見たりしました。今にちなん保育園ですけれども、年長児、それから来年度の年中児というところなんですけれども、やはり30名近い子供さんというところで、今の遊具のほうは滑り台であるとか、登り棒的なものであるとか、余り大きな子供さんが遊ぶような遊具がなかったものですから、ほかの園とも相談し、石見のほうは今、総合遊具が1台あります。にちなんのほうはそういうものがなかったので、にちなんに今年度お願いできればなというところでにちなん保育園ということで上げさせていただきました。よろしくお願ひします。

○山本委員長 久代安敏委員。

○久代委員 予算が可決されればすぐにでも子供が遊べるように予算を執行後早目にしていただきたいなと思います。

あともう1点、職員の給与費と嘱託職員の賃金と報償費があるわけだけでも、正職員と、いつも聞くわけですけども、嘱託職員ですよ、その人数についてそれぞれ3園でお聞かせください、実態を。

○山本委員長 人数でよろしいですか。



○久代委員 はい。

○山本委員長 大谷副園長。

○大谷副園長 失礼します。31年度はまだ決まっておきませんので、30年度について報告させていただきます。山の上保育園が正職が2人です。にちなん保育園は正職が9人、嘱託が12人です。石見保育園は正職が4人、嘱託職員が3人です。それで園長、副園長も含めての人数で、職員が全員で30名になっております。嘱託職員は15名で、正職も15名です。

○山本委員長 よろしいですか。そのほかございますか。

坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 総合遊具、にちなん保育園ということなんですけども、500万ということになるとかなり大型の遊具になるのではないかなと思います。園庭に置かれるということで園庭全体のスペース的にどうなのかなということと、総合遊具の主な部材は鉄ですか、木製でしょうか。農林課のほうでは木育ということもあって木のおもちゃとかの推進もされるわけなんですけども、その辺の材料について説明をお願いします。

○山本委員長 田辺保育園長。

○田辺保育園長 総合遊具の大体は、アルミ樹脂等の、滑り台のあたりはそれが使っております。登るところの丸太登り等は木材等が使っております。

○山本委員長 園庭のスペースについてはどうですか。

田辺保育園長。

○田辺保育園長 失礼いたします。スペースですけれども、一応この大きさのものを大体はかりました。園庭の一番上手の職員の駐車場の手前あたりにスペースをとって、そこに置くようなことをしようと思います。今1つ、木でつくったハウスみたいなものがあるんですけども、ちょっとそれがもう腐ってきておまして、撤去しなくてはいけないということがありまして、そここのところ撤去してちょっとスペースをあけて、そのあたりにこの新しい遊具のほうを設置するというようなところで思っております。

○山本委員長 坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 主構造が多分鉄だろうと思います。その木造での遊具の開発というか、木造での遊具もあると思うわけなんですけども、最近では性能もよくなって、防腐、防アリ処理がしてある木材もあるわけなんですけども、その辺の検討についてはどのようにされましたでしょうか。

○山本委員長 田辺保育園長。

○田辺保育園長 木材を使ったものですが、今にちなん保育園は先ほど言いました自然保育というところで、3年ほど前につくっていただきましたツリーハウスとか、それから山の上につくっておりますあずまやの横の展望台あたりは木でつくっております。木のものを十分に使って遊ぶ保育、それから上がる時には木のほうに木の名前をつけたようなものもつくっておりますので、そういうものを活用させていただきながら保育をしております。これにつきましては、既存のものというところで、子供たちが本当に遊んで楽しいものというところを園庭で遊ばせてもらい、それから木育についてはやはり日南町の木材というものを使ったツリーハウスや、それからあずまやの横の展望台あたりを使って木育をしながら、木とそれから既存のもの両方を使いながらいろんな意味での遊びを確保し、保障していきたいなというところでこのプレジャーキッズというものを今回計上させていただきました。

○山本委員長 そのほかございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようでしたら保育園について審査は以上で終了いたします。

ここで入れかえのために暫時休憩といたします。再開を2時半からといたします。

〔休 憩〕

○山本委員長 会議を再開します。

これからは、去る3月6日に行いました教育課の審査の中で、文化センターのエレベーターについて資料を提出していただくようお願いをしておりました。その資料が提出されましたので、このことについて説明を受けたのち、質疑を受けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。そういたしますと、説明をお願いいたします。

安達教育次長。

○安達次長 失礼します。総合文化センターのエレベーター改修工事について説明をさせていただきます。

まず最初に、現況ですが、日立製作所のエレベーターになります。制御方式は油圧制御方式、納入年月日は1996年4月になります。この型ですが、その下に記しておりますとおり生産期間が1989年から1997年の生産期間ということになっております。

その下に移りますが、表をごらんいただけたらと思いますが、この表は全国のエレベーターの機種別の台数になります。全国のエレベーターがどのような傾向にあるかということをお説明したいと思います。エレベーターの機種には大きくロープ式と油圧式がございます。

ます。ロープ式については機械室なしと機械室ありの2パターンがありますが、その表の一番下を見ていただくと、シェアといいますか、どれくらいのパーセントその機種があるかということですが、ロープ式の機械室なしが43.43%、機械室ありが46.69%、油圧式は9.88%ということで、現在油圧式は全体の中で非常に少ないということがわかります。

さらにこの欄の一番上の新規設置のところを見ていただくと、油圧式ですが29台ということになっておりまして、これで割合を出しますとわずか0.2%ということになりますので、新規に油圧式を設置するところは非常に少ないと。実際に、県のほうでもロープ式にどんどん切りかえを行っているという状況にあります。一番下の行にも書いておりますが、エレベーターの大手メーカーでは常用の油圧式エレベーターの生産を中止していると、こういうような状況にあるということです。

はぐっていただいて、2ページになりますが、今回の部品の生産中止に伴う供給停止となる部品ですが、そこに3点上げております。詳しくはこの後ろのほうの日立の資料を見ていただけたらと思いますが、この3点が供給停止になります。その下の丸の部分ですが、交換部品の製造についてということで、前回の会で議員の御質問にありました生産中止になっても部品はストックされていて、故障したらその部品を使って使えるようにするのではないかという御質問だったと思います。日立のほうで最終生産時から20年をめぐりに交換部品の生産を終了するというふうに内規で決めておられるということです。

これについては法令根拠はないわけですが、具体的なものはないわけですが、次のページの3ページをごらんいただくと、一番上です。国土交通省平成28年2月19日昇降機の適切な維持管理に関する指針の中で、3のその下、漢数字の一のところですか。製造した昇降機の部品等を当該昇降機の販売終了時から起算して当該昇降機の耐用年数を勘案して適切な期間供給すること、となっております。つまり販売を終了した時点から、数年間は供給をなさいと。その数年間というのは、耐用年数を勘案して決めなさいということになっております。したがって、日立としてはこの耐用年数が20年ということですので、生産を終了してから、あるいは販売を終了してから20年は必ず部品を供給しますというふうに内規で決めておられるということになります。

実際に、もとに戻りますと、2ページの表の下のところですか。もう一度、一番上の丸のところですが、最終生産時というのが1997年になります。一番最初に御説明をしたとおりです。それから20年ということで、2017年というのがとりあえずの期限という

ことになります。この時点で日立のほうから状況の説明の通知があっておりますが、それでは2017年にもうぴたっととまって供給ができなくなるかといいますとそうではなくて、それまでに生産していた部品が在庫としてありますので、それ以降は部品は生産しないだけで、在庫で対応するという形で現在進んでおるところです。しかし、その在庫も2020年の12月をもって恐らくもういっぱいいっぱい在庫がなくなるだろうと。状況を見ると、ひょっとするとそれよりは早まるかもしれないということをメーカーのほうから通知があったということで、保守部品が供給してもらえなくなるのではないかとということで、今回エレベーターを交換していただきたいということをお願いしておるところです。以上です。

○山本委員長 ただいま説明していただきましたことに対して質疑ございますか。

大西保委員。

○大西委員 説明ありがとうございました。まず最初に、ロープ式と油圧式の最初の話がありました。油圧式は本当に9.何%もないよと、占有率は。今回切りかえるときはロープ式に切りかえるんですか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 今回の改修につきましては、油圧式をロープ式のほうに、機械室なしのロープ式のほうに交換したいと考えております。以上です。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 今回、実はこの製造年月日、私も調べました。このとおりです。ちょっと疑問なのは、このタイプについては製造年は10年しかないんですね。その最後の、要するに車でもモデルチェンジする前の車種のぎりぎりの、もう2年しかないところに設定して、2年たって20年たってこれ22年ですよということです。ほかのメーカーは違いますよ。三菱なんかは。調べました。たまたま今回、病院の関係と同じ、一致しました。私は三菱を調べましたら。だから、今回病院は31年経過して初めて、全体ごそっじゃない、部品を交換されたんです。それについて、本当に22年でどうなのかと。使用頻度、ここに、あとちょっと記録見たら月1時間と書いてありますね。テストも調べました。こういう寿命ライフサイクルテストあるんですけれども、エレベーターは1カ月何時間、何回を想定して検査されているか御存じですか、試験を。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 申しわけございません。検査項目につきましては、そこまで調べ切れており

ません。申しわけございません。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 簡単に私は10分で調べられました。あるメーカーは、マンションを想定した上で1カ月1万回、1日300回上下することを計算してやっておられます。この文化センターは、わずか月1時間ですよ、検査記録は。ライフサイクルからほとんど摩耗がされてないんじゃないかなということで、過去22年間の点検記録でふぐあい点は、例えば部品を交換しなければならないようなふぐあい点はございましたでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 過去のメンテナンスの記録のほうでございます。過去のメンテナンスにおきましては、ばらばらと取りかえ部品のほうが上がってきておりますが、制御板を含めておよそ9年周期、長いもので15年周期、短いもの、例えばかご周りのベルト、消耗品類になります。そのようなものは5年、長いものは15年周期というような形での部品の取りかえのほう行っております。以上です。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 私はこのエレベーターの今、完全に交換しなければならないかという妥当性をちょっと話を聞いているわけです。エレベーターの現状ということでこの記録いただいています。今見ていただいたんですけども、月1時間です。かごも何も問題ないと思うんですよ。病院はふぐあい点の、メーカーに言われた、もう31年使っているけども、ここをごそっとかえますよ、モーターもということですけど、ここはもう22年でかえるようになってます。私、逆にメンテナンス会社に対して不審を抱いています。

それともう一つ、同型の、同タイプの2階まで上がるこの日立さんの、製造10年間さかれています。例えば10台、100台なのかわかりませんが、それが今現在、逆にメンテナンス会社に聞いていただいて、何台交換したか、それくらいの記録が、日立だったら持っていると思うんですよ。ほとんどのところが交換しますよと、あとは日南町だけですよと言われるのかどうか。

それともう一つ、今言いました頻度、ここに書いてある月1時間しか稼働していない頻度を考慮して、もう少し延命できるんじゃないでしょうか。いかがでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 稼働台数のほうはメーカーのほうに今現在問い合わせ中でございまして、正確な数字というのはまだ把握してないところではございます。委員おっしゃられておりま

すように、文化センターのエレベーターの稼働状況、資料提出させていただいたとおり、月1時間程度というような形となっております。しかしながら、メーカーからの部品供給の停止というところを勘案しまして、安全性の担保というのを行っていきたいと思っております。油圧式エレベーターの部品そのものが品薄の状態、ずっと定期的にメンテナンスをしておりますので、すぐさまとまるということはないのかもしれませんが、新しいロープ式のほうにかえさせていただいて、法に適したようなエレベーターというものにかえさせていただければと思っております。以上です。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 議会棟に、外観ですけども、日立のメンテ会社ですから、これは同じタイプですか。今現在文化ホールにあるのと。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 議会棟にあるエレベーターとあわせまして小学校にあるエレベーターも同じ型式になりますが、機械室なしのロープ式のエレベーターのほうが入っております。以上です。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 私は日立さんをどうのこうの言いたくないんですけど、余りにも三菱さんと、私ホームページで見ますと、結構三菱さんのほうが時間長いんですよ、ライフサイクルが。もし時間が許せるならば、三菱さんと相見積もりとするような形でとられたほうが、私は逆に稼働時間とかメンテ記録から見て、この3,500万かけて22年稼働したエレベーターごっそり入れかえるのはちょっと疑問を抱いております。妥当性を検証するためにも三菱さんに一応声をかけて、ほかの他社もいっぱいありますけども。病院が三菱さんを使っておられますので、なおかつ31年も稼働していたエレベーターを今回部品交換、ユニット交換でできるということもありますので、それは再検討されたらいかがでしょうか。どうでしょうか。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 御意見ありがとうございます。前回の答弁でも申し上げたとおり、先ほどおっしゃったとおりいろいろな、全体をかえる場合には当然三菱、日立等々どこでも見積もりをして、入札をしてかえるという気持ちは前からありましたので、議員おっしゃるとおりには、私もそういうふうに思っておりました。したがって、方法等についてはまだまだ調査しなければならないところがあると思っておりますけれども、いずれにしましても来

年度においてこの工事を進めていきたいというふうに考えておりますので、その妥当性等々については御理解をいただき、あとのやり方等々については協議をしてみたいと思いますので御理解をいただきたいと思っております。

○山本委員長 大西保委員。

○大西委員 私一人が決められませんので、私は意見だけ言っておきます。この診断結果も、かご昇降機はAランクです。それ以外の3項目はCランクです。ここもちょっと私も疑義を抱いてます。本当にそうなのかなと。これはまた議員の皆さんと相談したいと思っております。私は意見だけ言いましたので。以上です。

○山本委員長 そのほかございますか。

坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 大西委員の御発言と重なりますけれども、現状の状況をしっかり説明できるようにしていただきたいと思っております。ここの日立からの提案でもビルの寿命が平均で五、六十年という判断です。これ自体も経済的なことから取り壊して、新しく建てかえられるというのは都市部を中心にたくさんあるんですけども、ビル自体の寿命というのはもっと長い。特に文化センターあたりは使える建物だと思っておりますし、その下にありますように使用頻度により異なりますが、多くの建物では25年が経過するころまでにはということであります。ですので、使用頻度等から考えると、そんなに急にかえる必要はないかなと素人ながらに判断するわけでありますので、最初に言いましたように現在の状況を明確に説明をいただきたいと思っております。

教育委員会に直接言ってもどうかとは思いますが、本当に31年度、前年度対比23%を超えるような大型予算を組まざるを得ないような状況の中で、あえて31年度にこれを入れられたという意図もちょっと疑問に思うところもあります。慎重な検討が必要だと思っておりますが、いかがですか。

○山本委員長 安達教育次長。

○安達次長 使用頻度の件ですが、先ほども大西議員さんからありました、日立が提出しております資料の1のところになります。基本使用のところですが、一番下の欄に走行時間ということで、月1時間というふうにあります。実際の使用頻度は月に1時間です。現状を言いますと、時間としてはそうなんです。2階ですので、健常者の方はほとんど乗られることはありません。当然高齢者の方であるとか、障がいのある方ということになります。したがって、2階にある多目的室とか、研修室に行かれる方ということになりま

すので、実際はこれくらいの使用頻度なのかなということを思っております。

それから、夏場になりますと文化センターで健診がありますので、そのときの利用というのもあります。実際に新たに購入をするときには、先ほどもありました現在日立にこだわっているわけではありませんので、全ての会社に購入の代金だけではなく、御指摘のようにランニングコストであるとか、耐用年数であるとか、そういったところも十分に比較して新たに購入をしていきたいということも思っております。

また、大型予算の中でどうして31年度かという御指摘もいただきましたが、やっぱり教育委員会としては突然動かなくなるとか、あるいは町民の方が乗っておられるところで動かなくなるとか、事故があるとかということは避けたいということがありますので、部品が供給停止になってもう直せないということになるようだったら、なるべく早く修理したい、新しいものにしたいという思いで今回上げさせていただいております。以上です。

○山本委員長 よろしいですか。

坪倉勝幸委員。

○坪倉委員 部品の供給も31年でもうなくなるという状況じゃないわけでしょう。メンテナンスを続けながらエレベーターの寿命を延ばすという工夫もしなければ、今回22年でかえるということになります。またその次、25年でかえるということになる。文化センターのライフサイクルの中で何回かえることになるのかということも当然出てきますけども、少しでも寿命を長く使うというのも工夫、そういった経費節減も考えなければならぬと思います。部品の供給は何年までできる。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 部品の供給のほうですが、本日提出させていただいております資料の最後から2枚目のところに、日立ビル製作所社製エレベーター、エスカレーターを所有のお客様へというところの中段、対象となる昇降機の部品供給期限（最長）というところをごらんください。こちらのほうにエレベーター部品のほうですが、油圧式、太字にしております、2020年12月までということになっております。以上です。

○山本委員長 よろしいです。坪倉委員よろしいですか。

大西保委員。

○大西委員 先ほど次長から説明ありました、何度も同じことを言われてましたけども、本当にこのメーカーの部品が製造中止になりますと書いてありますけども、大体標準化されとるんですよ部品というのは。メーカーの言いなりになっているんじゃないでしょうか。



私は部品関係の仕事しておりましたので、設計もしておりましたので、それがよくわかっているんです。カタログ見て、図面、設計をしたりするんですけども。もう一度言います。この同タイプの、油圧式の日立さんのこの製造年月日、10年間のうち、何台製造されて、当然設置されてます、そのうち何台ごそっと入れかえてるか調べてください。それが妥当性の一つの検証です。まず1点それをしてください。それでないと、どこでもかえてませんよと、製造1年目のものをまだ稼働してますよとなれば、この今の答弁が全ておかしくなりますから。まずそれを調べてください、大至急。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 こちらのほう大至急調査をいたしまして、その当時この10年間につくったエレベーター分の改修済みというのを調べてお示しさせていただきたいと思います。以上です。

○山本委員長 そのほかございますか。よろしいですか。

そういたしますと、ただいま資料を再度提出していただくということが必要になると思いますが、予算審査の日程も限られていますので、早急に調べていただきたいと思えます。前回申し上げましたが、13日に総括を予定しておりますので、それまでには可能でしょうか。微妙なところですか。かなり重要なところだと思います。延命化を図るべきかどうかというところを判断する資料にはなろうかとは思っていますので、急いでいただいて、できる限り13日までには提出をしていただきたいというふうに思います。よろしく願いをいたします。

そういたしますと、この件については以上で審査を終了いたしたいと思えます。よろしいでしょうか。お疲れさまでした。

引き続きまして、お手元に資料を用意していただいておりますが、予算審査の意見について本日総括をする予定にしておりました、本日、病院と保育園を行いまして、まだこの11日、午前ということでお願いをしましたので、今後病院、保育園、意見が出るかもわかりませんが、本日朝までに意見をいただいたものをプリントしてお渡しをしておきます。これにつきまして、一つずつ皆様の御意見を伺いながらまとめていきたいと思えます。最終的な意見の取りまとめではないというふうに私は思っております、こういう意見が寄せられましたということを見ていただければと思えます。よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

そういたしますと1枚目でございます。朗読をさせていただきます。

全体といたしまして、賃金、共済費、社会保険料、人数等の記載方法が各課ばらばらで統一されていない。なぜ必要なのか、目的は何なのかを認識し検討されたいという意見が寄せられております。

意見を全て朗読させていただいて、その後お聞かせいただけますかね。その下に移ります。

農林課、森林認証取得費用の更新審査費用は、31年度は明確に予算計上されているが、30年度の年次審査費用は明確になっていない。過去の予算、決算を再調査する必要があると考える。括弧としまして、町負担額、町有林、括弧と、森林組合の審査費用支払い額の精査ということでございます。

それと住民課、環境審議会が30年度1回も開催されていない。31年度開催するのか。環境審議会が必要なのか再検討されたい。

教育課でございますが、文化ホールのエレベーターの更新時期を再検討されたい。製造年月保証期間、保証部品の年限、点検記録、補修記録、使用頻度等、十分な調査が必要と考える。

続きまして、裏面になりますが、行財政改革。向こう5年間の改革計画を策定されているが、事務事業評価のみならず施策の体系図を作成するなど、より効率的な行財政運営と施策の効果的な施行につながるよう取り組まされたい。

情報発信といたしまして、ホームページの再構築が検討されるが、町内外への情報発信による町の活性化と町民と行政の共同による安全、安心なまちづくりのためにもホームページ、フェイスブック、にちなんチャンネル、防災無線及び広報にちなんでの連携した情報発信やタイムリーな情報更新ができるよう体制の整備もあわせて検討されたい。

公共交通確保総合対策といたしまして、31年度もデマンドバスのドア・ツー・ドア化の実証事業として、引き続き高齢者等タクシー助成事業が実施されるが、コンパクトビレッジ構想の充実のためにも、29年に策定された公共交通総合計画概要版の本計画の策定と、交通空白地帯の解消実現に向けて検討を加速されたい。

続きまして、高齢者生活福祉センター居住部門運営といたしまして、かすみ荘で実施されているデイサービス事業とホームヘルプセンターがあかねの郷に移転することになり、居住部門のみがかすみ荘に残ることになる。かすみ荘の施設や安全の管理に課題がある。冬期の入所時期までに代替施設を確保し、かすみ荘での居住部門の運営を終了されたい。

続きまして、健康増進事業といたしまして、町民を対象にしたライザップによる実践型

健康セミナー、以下箇条書きで文章ではありませんが課題点として上げていただいておりますが、林業一般管理といたしまして、原木安定対策について項目を上げていただいておりますし、総合文化センター管理といたしまして先ほどありましたがエレベーターの改修工事ということで項目を上げていただいております。

それから最後ですが、予算審査意見全般といたしまして、当初予算説明資料事業説明について、当初予算説明資料において事業説明とのみ記載のあるものを事業目的と事業概要に分けて記載されたものに統一されたいという意見と、もう一つ、職員健康福利厚生事業及び健康増進事業、括弧として健診受診者を対象にした実践型健康セミナーといたしまして、職員の健康増進は重要であるが、一般町民においても同様である。ライザップのプログラムを実施する前に、これまで取り組んできた健康増進事業等の総括を行い、課題等を整理した上でなぜライザップのプログラム実施が必要であるかを十分検討されたい。その上で実施するとすれば、町職員と同様のプログラムを健診受診者にも実施すべきである。健康増進を進める上で、まず庁舎敷地内を全面禁煙にするなど積極的な取り組みを行うべきであるという意見が寄せられております。

こういう意見が寄せられておりますが、どういたしましょうか。

久代安敏委員。

○久代委員 委員長。農林課の資料は予算審査で全然出てませんよ。例えば原木の支援についても一定の発言があったし、やっぱり審査する上で資料がね。一応きょうは中間のまとめということなんだけど、きっちり出てこない。出ている部分は今、話し合い、意見を出し合ってもいいけども、それぞればらばらだなという実感がしてますが、どうでしょうか。

○山本委員長 そのことは私も十分思っておりまして、今回かなり資料の提出ができております。先ほど局長を通じて、また再度お願いをしたところでありますが、なかなか資料が出ておりませんので、久代委員、言われるとおりにだと思えます。本日これだけの意見をいただいておりますし、13日にまた総括を予定をしておりますので、再度資料の提出をお願いをして、またこれ以外にも意見を、13日朝までには出していただいた中で、この委員会としての意見の取りまとめを進めていきたいというふうには思っています。ただ、可能なところがあればまとめてもいいのかなとは思いますが、最後全体でやったほうがよろしいですかね。

では、本日はこういう意見が寄せられたということで見ていただいたということでよろ

しいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）

そうしますと、次回は13日9時からを予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

そうしますと、本日の委員会は以上をもちまして終了いたします。お疲れさまでした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日

委員長

副委員長